



リリース・ノート

---

# Sybase Event Stream Processor 5.0

Windows

ドキュメント ID：DC01746-01-0500-01

改訂：2011 年 12 月

Copyright © 2011 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連の商標は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

# 目次

現在のマニュアルの入手 .....	1
製品の概要 .....	1
別途ライセンスが必要なアダプタのダウンロード要件 .....	2
インストールとアップグレード .....	2
サブキャパシティ・ライセンス .....	2
インストールに関する既知の問題 .....	3
既知の問題 .....	5
Event Stream Processor スタジオに関する既知の問題 .....	5
Event Stream Processor サーバに関する既知の問題 .....	7
Event Stream Processor アダプタに関する既知の問題 .....	8
移行に関する既知の問題 .....	9
CCL に関する既知の問題 .....	9
SPLASH に関する既知の問題 .....	11
SDK に関する既知の問題 .....	12
マニュアルの変更 .....	13
追加の説明や情報の入手 .....	15
サポート・センタ .....	15
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード .....	15
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認 .....	16
MySybase プロファイルの作成 .....	16
アクセシビリティ機能 .....	17

# 目次

## 現在のマニュアルの入手

Sybase® Event Stream Processor では、オンライン・マニュアルの更新を定期的に提供しています。そのため、最新バージョンのマニュアルを Web で入手できる場合があります。製品のリリース後に、製品またはマニュアルに関する重要な情報が追加されているかどうかを確認するには、Sybase Product Documentation の Web サイトを利用してください。

Sybase Product Documentation の Web サイトでマニュアルにアクセスするには、次の手順に従います。

1. Product Documentation の Web サイト (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) にアクセスします。
2. 製品と言語を選択し、[Go] をクリックします。
3. [Document Set] リストから、製品のバージョンを選択します。
4. 参照するマニュアルのリンクを選択します。
5. ほとんどのマニュアルで、PDF バージョンをダウンロードするか、オンライン・マニュアルを参照できます。

## 製品の概要

このリリース・ノートには、Sybase Event Stream Processor 5.0 に関する既知の問題、その対処方法、最新のマニュアル更新情報が記載されています。

Sybase Event Stream Processor を使用すると、独自の複雑なイベント処理アプリケーションを作成および実行し、イベント・データのストリームから連続する情報をリアルタイムに取り出せます。

サポートされるプラットフォームとオペレーティング・システムの詳細については、『インストール・ガイド』を参照してください。

このリリースの新機能の詳細については、『新機能の概要』を参照してください。

アクセシビリティ機能の詳細については、「アクセシビリティ機能」(17 ページ)を参照してください。

## 別途ライセンスが必要なアダプタのダウンロード要件

Event Stream Processorに加えて、別途ライセンスが必要なアダプタを注文した場合は、プラットフォームごとに Event Stream Processor CD イメージの1つのコピーのみをダウンロードしてください。

便宜上、Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC: Sybase Product Download Center) では、Event Stream Processor CD イメージを単独で入手することも、別途ライセンスが必要な各アダプタと一緒に入手することもできるようにしていますが、別途ライセンスが必要なアダプタを Event Stream Processor と一緒に注文した場合、ご使用の各プラットフォームに必要な CD イメージのインスタンスは1つのみになります。使用するプラットフォームが1つの場合は、CD イメージのコピーを1つダウンロードしてください。

Event Stream Processor のライセンスに加えて、アダプタごとに別途ライセンスをダウンロードしてください。

## インストールとアップグレード

インストール・ガイドで省略されたか誤りのあった、または特別に強調する必要がある、インストールとアップグレードの最新情報について説明します。

Sybase Aleri Streaming Platform から Sybase Event Stream Processor 5.0 への移行の詳細については、『移行ガイド』を参照してください。

## サブキャパシティ・ライセンス

サブキャパシティ・ライセンスとは、物理マシンで使用可能な CPU の一部に対して Sybase 製品のライセンスを供与することです。このバージョンの Event Stream Processor のサブキャパシティ・ライセンスについて説明します。

表 1 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
Intel、AMD	VMWare ESX Server* ゲスト OS : Windows	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0、ESX 4.1、ゲスト OS : Windows 2008 R2、Windows 7、Windows XP	仮想マシン

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
Intel、AMD	Xen**、DomainU : Windows	Windows 2008 R2、Windows 7	仮想マシン

\* VMWare ESX Server に VMWare Workstation と VMWare Server は含まれません。

\*\* Xen に Sun Solaris x64 は含まれません。

## インストールに関する既知の問題

このバージョンの Event Stream Processor のインストールに関する問題について説明します。

表 2 : インストールに関する既知の問題

CR#	説明
668057	<p>InstallShield も使用している以前の Sybase 製品と同じディレクトリに InstallAnywhere を使用して Event Stream Processor をインストールすると、製品のいずれかをアンインストールした場合に他の製品が使用できなくなる可能性があります。これは、一部の共有コンポーネントがアンインストーラによって削除されるためです。</p> <p>以前の Sybase 製品と同じディレクトリに Event Stream Processor をインストールする場合は、アンインストールを実行しないでください。</p>
681675	<p>SySAM ライセンス・サーバを起動すると、ライセンス・サーバへの接続に失敗したことを示すエラーが表示されることがあります。</p> <p>このバージョンの Event Stream Processor には、SySAM ライセンス・サーバ・ソフトウェアのインターネット・プロトコル・バージョン 4 (IPv4: Internet Protocol Version 4) とインターネット・プロトコル・バージョン 6 (IPv6: Internet Protocol Version 6) の両方のバージョンが含まれています。 <b>sysam configuration</b> コマンドを使用して、ご使用の環境に応じてライセンス・サーバのバージョンを選択してください。デフォルトでは、IPv4 バージョンのライセンス・サーバが設定されます。このため、ライセンス・サーバ・ホスト上で IPv6 が既に有効になっているとエラーが発生することがあります。</p> <p>IPv6 と IPv4 の両方を同じホスト上で実行することもできます。この場合は、SySAM サーバを指定するときにホスト名ではなく IPv4 アドレスを使用してください。</p>

## インストールとアップグレード

CR#	説明
682298	<p>Windows 7 の 64 ビット版の場合は、コンソールからアンインストールできません。</p> <p>アンインストールするには、グラフィック・アンインストーラを使用してください。</p>
681866	<p>Windows XP システムの場合は、アンインストーラを使用して有効なサブド・ライセンスを持つ Event Stream Processor をアンインストールできません。</p> <p>残っているファイルは手動で削除してください。</p>
682858	<p>インストーラのカスタム・インストール・オプションを使用して、インストールする具体的なコンポーネントを選択できます。選択対象または選択解除対象に制限はありません。そのため、スタジオのみをインストールすることもできます。ただし、スタジオを単独でインストールしてもプロジェクトをコンパイルすることはできません。</p> <p>スタジオのインストール済みインスタンスすべてでプロジェクトを確実にコンパイルできるように、スタジオと一緒に必ずサーバをインストールしてください。</p>
692135	<p>Event Stream Processor 5.0 から Event Stream Processor 5.0 ESD #1 へアップグレードするときに、ESD #1 をバージョン 5.0 と同じ場所にインストールすると、サーバ、スタジオ、アダプタは既にインストール済みとして検出されます。"Sybase Event Stream Processor 5.0 ESD #1 xxx" のアンインストールを求めるメッセージが表示されます。ESD #1 はまだインストールされていないので、このメッセージは誤りです。正しいメッセージは "Sybase Event Stream Processor 5.0 xxx" です。</p> <p>アンインストールしないことを選択して、インストールに進んでください。</p>





# 既知の問題

Sybase Event Stream Processor に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

## Event Stream Processor スタジオに関する既知の問題

ESP スタジオに関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 3：スタジオの問題

CR#	説明
680405	<p>AleriML から CCL にプロジェクトを変換するときに、プロジェクトに Windows のファイル・パスがあると、スタジオのビジュアル・オーサリングでその変換後のプロジェクトを実行できません。</p> <p>これは、Windows のファイル・パスでは 1 個の円記号 (¥) が使用されていますが、CCL コンパイラはその文字をエスケープ文字と見なすためです。この条件により、プロジェクトをスタジオのビジュアル・オーサリングにロードできなくなります。プロジェクトをロードするには、1 個の円記号を 2 個の円記号 (¥¥) に手で置き換えてください。たとえば、C:¥Temp¥store は C:¥¥Temp¥¥store に変更してください。</p>
680621	<p>ジョインに 2 つの入力コネクタがある場合、一方のコネクタが削除されても、その削除された入力コネクタに属するカラムは削除されません。</p> <p>削除された入力コネクタに属するカラムの式を手動で削除してください。</p>
680686	<p>ビジュアル・エディタで名前が重複するウィンドウまたはストリームを作成し、ファイルを保存してから、テキスト・エディタに切り替えると、元のストリームまたはウィンドウの 3 つ目の重複が作成されます。この 3 つ目の重複は、ビジュアル・エディタに再び切り替えた場合にのみ確認できます。</p> <p>この 3 つ目の重複を削除するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジュアル・エディタで、[Remove all shapes from diagram]  をクリックして、すべての図形を削除します。</li> <li>2. [Add all shapes]  をクリックすると、元のストリームまたはウィンドウと 2 つ目の重複するストリームまたはウィンドウが再び表示されます。</li> <li>3. 重複するストリームまたはウィンドウにユニークな名前を付けます。</li> </ol>

CR#	説明
681269	<p>プロジェクトがインポート・ファイルのスキーマを参照している場合、スタジオはエラーを返しますが、プロジェクトは問題なくコンパイルされます。</p> <p>プロジェクトを閉じて、ファイルを更新してください。または、逆の順序でファイルを作成してください。</p>
681508	<p>スタジオでアダプタのプロパティを定義する場合は、ファイル・システムから特定のファイルを選択できます。Windows のファイル・パスにはファイルの区切り文字として 1 個の円記号 (¥) が含まれています。ただし、CCL コンパイラは円記号をエスケープ文字と見なすため、パスは正しく解釈されません。</p> <p>そのため、スタジオで Windows のパスを使用する場合は、1 個の円記号 (ファイルの区切り文字) を 2 個の円記号 (¥¥) に手動で置き換えてください。</p>
681601	<p>ビジュアル・エディタに Sybase IQ アウトプット・アダプタを追加し、プロパティを編集してパスワードを設定すると、パスワードは正しく非表示になります。ただし、[OK] をクリックすると、パスワードのプロパティがクリア・テキストで表示されます。</p> <p>パスワードの暗号化がサポートされるのは .ccr ファイルの場合のみです。パスワードを確実に暗号化するには、.ccr ファイルを使用してアダプタのプロパティを定義してください。</p>
682399	<p>ビジュアル・エディタでコネクタ・ツールを使用している場合、ストリームまたはウィンドウから名前付きスキーマに接続することはできますが、名前付きスキーマからストリームまたはウィンドウに接続することはできません。</p>
682543	<p>名前付きスキーマからキー・カラムを削除すると、CCL エディタが更新されません。CCL エディタではそのカラムがプライマリ・キーとして表示されるので、プロジェクトは正しくコンパイルされません。</p> <p>インライン・スキーマではこの問題は発生しません。正しくコンパイルするには、CCL エディタでプロジェクトを更新してください。</p>
683166	<p><b>dir</b> プロパティを設定してファイル CSV インプット・アダプタとファイル XML インプット・アダプタのスキーマ検出を設定すると、<b>file</b> プロパティを設定できなくなります。</p> <p>特定のファイルを見つけて選択できるように <b>dir</b> プロパティと <b>file</b> プロパティを別々に設定してから、スキーマ検出を使用してください。</p>
690176	<p>[Learning] パースペクティブで用例プロジェクトを実行している場合に、一部のストリームでストリーム・ビューが空になります。</p> <p>[Learning] パースペクティブで用例プロジェクトを実行しているときに、小さいデータ・セットを使用する場合は、[stream view pulsed subscribe interval] の値を 0 に変更してこの問題に対処してください。</p> <p>間隔をデフォルト値の 1 に戻してから、他のプロジェクトを使用してください。</p>

## Event Stream Processor サーバに関する既知の問題

サーバに関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 4：サーバの問題

CR#	説明
671971	<p>デフォルトでは、RSA のログインに "SHA1withRSA" シグニチャ・アルゴリズムと "MD5" ダイジェスト・アルゴリズムが使用されます。クラスタ設定でシグニチャとダイジェスタの手法を変更する場合は、SIGN_ALGORITHM 環境変数と DIGEST_ALGORITHM 環境変数に同じ変更を加えてください。</p> <p>たとえば、SIGN_ALGORITHM 環境変数の値は "SHA1withRSA" (デフォルト)、"MD5withRSA"、"SHA1withDSA" (Java のみ) です。DIGEST_ALGORITHM 環境変数の有効な値は "MD5" (デフォルト) と "SHA1" です。</p>
674280	<p>ログ・ストアを使用する入力ウィンドウでは保持を使用しないようにしてください。コンパイラはこれをエラーと見なしませんが、ログ・ストアを使用する入力ウィンドウでの保持ポリシーはリカバリの後で期待どおりに動作しないことがあります。</p>
674786	<p>ESP サーバがクラッシュしたときに、ログ・ストアを使用するジョインベースのウィンドウ、ログ・ストアを使用する 1 つソース・ウィンドウ、メモリ・ストアを使用していて、ログ・ストアを使用するウィンドウからの派生であるもう 1 つのソース・ウィンドウがあった場合、ジョインのウィンドウ内のデータはクラッシュの時点までリカバリされますが、ESP サーバにアップロードされた新しいレコードはジョインされません。ソース・ウィンドウのすべてがログ・ストアを使用していれば、ESP サーバにアップロードされた同じレコードはジョインされます。</p>
675321	<p>文字列を返す外部関数を使用している場合、この文字列をアリーナに割り当てないでください。割り当てると、返された文字列で使用されていたメモリをサーバが後で解放しようとしたときにリカバリ不可能なエラーが発生します。このメモリは、レコードが処理された時点でサーバによって既に解放されています。</p>
680627	<p>sum 関数の結果がカラムのデータ型の最大値より大きいと、ESP サーバで障害が発生することがあります。</p>
680628	<p>avg 関数に渡されたデータの合計がカラムのデータ型の最大値より大きいと、予期しない出力を受け取ることがあります。</p>

CR#	説明
681199	<p>クラスタ・サーバを他のサーバで使用されているポートを使用して起動した場合、クラスタ・サーバは正常に起動したように見えます。しかし、クラスタ・サーバの動作が乱れて、接続しようとするときのエラーが報告されることがあります。</p> <pre>ERROR - No such handler:Cluster.getPublicKey</pre> <p>クラスタ・サーバを起動する場合は、まだ使用されていないポートを使用してください。</p>
682126	Windows の 64 ビット版プラットフォームの場合は、データをパブリッシュした場合に <code>esp_server</code> が断続的にハングします。
682692	大量のデータと一緒にロードすると、時間ベースの保持を使用しているモデルはローを正しく有効期限切れにしません。
689875	<p>マルチノード・クラスタでは、最も古いノードがマネージャとコントローラの組み合わせノードで、実行中のプロジェクトが少なくとも 1 つある場合に、この特定のノードを強制終了すると、クラスタが応答しなくなることがあります。</p> <p>この問題を回避するには、マネージャとコントローラの組み合わせノードをクラスタに含めないでください。</p>
692405	<code>power()</code> 関数は、結果が整数データ型の最大値より大きいと、誤ってオーバフロー・エラーをスローします。サポートされている最大値は <code>long</code> です。

## Event Stream Processor アダプタに関する既知の問題

Event Stream Processor でサポートされるアダプタに関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 5: アダプタの問題

CR#	説明
680661	<p>プラットフォーム・インプット・アダプタとプラットフォーム・アウトプット・アダプタは、Event Stream Processor ではサポートされていません。</p> <p><code>platform_in.cnxml</code> と <code>platform_out.cnxml</code> はインストールに含まれていますが、内部でのみ使用するファイルです。</p>
683481	<p>Windows の 64 ビット版プラットフォームの場合は、RTView アダプタの <code>examples</code> フォルダにある <code>run_loaddate.bat</code> ファイル内で、<code>cat</code> を <code>type</code> に変更してください。変更しないと、<code>cat</code> がコマンドとして認識されないことを示すエラー・メッセージが表示されます。</p>

CR#	説明
692058	24 時間形式を使用するように設定されているマシンで Excel を実行している場合に、bigdatetime 値を取得すると Microsoft Excel 用 ESP アドインがクラッシュします。 12 時間形式を使用するようにマシンを設定してください。
692062	Windows の 64 ビット版プラットフォームの場合、Excel は、Microsoft Excel 用 ESP アドインの <b>SybaseRTP</b> 関数を認識しません。 1. Excel で、[Office ボタン]> [Excel のオプション]> [アドイン]> [設定...] を選択します。 2. [オートメーション] をクリックします。 3. [SybaseRTP.Rtp] を選択します。 4. [アドイン mscoree.dll が見つかりません] というダイアログが表示されます。 5. [いいえ] をクリックします。
該当なし	Microsoft Excel 用 ESP アドインをインストールする前に、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 またはそれ以上をインストールしてください。

## 移行に関する既知の問題

移行と `esp_aml2ccl` ユーティリティに関する既知の問題について説明します。

表 6 : 移行の問題

CR#	説明
684802	<code>esp_aml2ccl</code> ユーティリティによって、デフォルトで <code>money</code> は <code>money(4)</code> に変換されます。 <code>.ccx</code> ファイルで、すべての <code>money(4)</code> インスタンスを手動で <code>money</code> に置き換えてください。

## CCL に関する既知の問題

CCL に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 7 : CCL の問題

CR#	説明
657188	<code>power()</code> 関数が処理できるのは、浮動小数点数型の NULL 値のみです。

## 既知の問題

CR#	説明
682005	<p>Windows の 64 版プラットフォームの場合、CCL 関数 <b>xmlserialize()</b> を呼び出すと <code>esp_server.exe</code> は失敗します。</p> <p>この問題は、Windows の 32 ビット版プラットフォームでは発生しません。</p>
683896	<p>『CCL プログラマーズ・ガイド』では、必要に応じて <b>CREATE LIBRARY</b> 文の <i>argName</i> 引数が記載されています。</p> <pre data-bbox="323 430 1174 505">CREATE LIBRARY libraryName LANGUAGE {C JAVA} FROM fileName( returnType funcName (argType argName,...); ...);</pre> <p>これはオプションの引数なので、正確には <i>[argName]</i> です。</p> <pre data-bbox="323 673 1174 748">CREATE LIBRARY libraryName LANGUAGE {C JAVA} FROM fileName( returnType funcName (argType [argName],...); ...);</pre>

## SPLASH に関する既知の問題

SPLASH に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 8 : SPLASH の問題

CR#	説明
662913	<p>辞書とベクトルのデータ構造はグローバルに定義できますが、グローバルに使用できるのは読み取りの場合のみです。辞書またはベクトルのデータ構造に書き込みを実行できるのは1つのストリームのみです。そのストリームが書き込みを実行している間は、他のストリームはそのデータ構造に対して書き込みも読み取りも実行できません。グローバルな辞書またはベクトルのデータ構造の管理に使用する基本となるオブジェクトはスレッドセーフではありません。ストリームが書き込みを実行する場合は、グローバルな辞書またはベクトルのデータ構造に対する排他的アクセスが必要です。あるストリームが書き込みを実行しているときに他のストリームがこれらのデータ構造にアクセスすることを許可すると、サーバ障害が発生する可能性があります。</p> <p>さらに、これらのデータ構造の使用は、複数のストリームによって読み取られるが処理中に更新する必要はない比較的静的なデータ(国コードなど)に限定してください。辞書またはベクトルへのデータの書き込みは、ストリームが読み取る前に完了してください。</p> <p>次に示すように、グローバルな辞書またはベクトルを読み取るすべてのオペレーションで、isnull チェックを実行してください。</p> <pre>&gt;typeof(streamname) rec := dict[symbol]; if( not (isnull(rec)) { // use rec }</pre>

## SDK に関する既知の問題

.NET SDK に関する既知の問題について説明します。

表 9 : SDK の問題

CR#	説明
682112	<p>.NET SDK を使用している場合は、\$ESP_HOME/examples/net/SubscriberExample フォルダにある SubscriberExample.cs ファイル内の例を実行するときにメモリ・リークが発生しないように、次のコードをその下のコードに置き換えてください。</p> <pre>while (!done) {     event1 = subscriber.get_next_event(espError);      switch (event1.getType())     {     ...     ...     } }</pre> <p>上記のコードを下記のコードに置き換えてください。</p> <pre>while (!done) {     event1 = subscriber.get_next_event(espError);      switch (event1.getType())     {     ...     ...     }     event1.release(); }</pre>



## マニュアルの変更

Sybase Event Stream Processor と一緒にリリースされたマニュアルに加えられた更新、訂正、内容について説明します。

表 10: 『スタジオ・ユーザズ・ガイド』の変更内容

CR#	説明
682387	<p>実行中のプロジェクトに変更を加えてからプロジェクトを再配備するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [Authoring] パースペクティブで、プロジェクトをコンパイルして開始します。</li> <li>2. [Run-Test] パースペクティブで、プロジェクトを使用して何らかの作業を実行します。</li> <li>3. プロジェクトを停止します。</li> <li>4. [Authoring] パースペクティブで、プロジェクトに変更を加えて、開始します。 エラーが表示されます。[Run-Test] コンソールに、アプリケーションが既に存在するために障害が発生したことが示されます。プロジェクトは停止した状態でまだサーバに存在します。</li> <li>5. 再配備するには、[Run-Test] サーバ・ビューからプロジェクトを削除してから、[Authoring] パースペクティブで新しいバージョンを開始してください。</li> </ol>

表 11: 『CCL プログラマーズ・ガイド』の変更内容

CR#	説明
643882	<p>集約、ジョイン、または Flex の各オペレーションを実行している場合のみ、デルタ・ストリームでキー変換を実行できます。デルタ・ストリームは状態を維持しないため、キーが異なるウィンドウではデルタ・ストリームを定義できません。</p>

表 12: 『管理者ガイド』の変更内容

CR#	説明
682458	<p><b>esp_cluster_admin</b> ツールの対話型モードの場合のユーザ名とパスワードのクレデンシャルに関する制限が記載されていません。クレデンシャルには英数字を使用できますが、クレデンシャルの先頭はアルファベット文字とします。たとえば、パスワード [12345678] は無効ですが、[P12345678] は有効です。</p>

CR#	説明
682913	「ご使用の Event Stream Processor インストール環境で使用されているポート番号」とは、クラスタ・キャッシュのポート番号のことです。

表 13：『ユーティリティ・ガイド』の変更内容

CR#	説明
682458	<b>esp_cluster_admin</b> ツールの対話型モードの場合のユーザ名とパスワードのクレデンシャルに関する制限が記載されていません。クレデンシャルには英数字を使用できますが、クレデンシャルの先頭はアルファベット文字とします。また、このマニュアルには、[1234] というサンプル・パスワードがありますが、これも無効です。

表 14：『.NET SDK ガイド』の変更内容

CR#	説明
648988	<p>このガイドに次の説明を追加してください。</p> <p>一般的には、パブリッシュ・コールからのリターン・コードは、ローの送信が成功したかどうかを示します。プラットフォームでの処理中に発生したエラー(重複データの挿入など)は返されません。パブリッシュ・コールからのリターン・コードの意味は、アクセス・モードと、同期転送または非同期転送のどちらを選択したかによって異なります。</p> <p>コールバック・モードまたはセレクト・アクセス・モードを使用する場合、リターン・コードでは、SDK でデータ・キューを作成できるかどうかのみが示されます。データがソケットに実際に書き込まれたかどうかは、該当のイベントによって示されます。コールバック・モードおよびセレクト・アクセス・モードでは、現在同期パブリッシュは実行できません。</p> <p>直接アクセス・モードを使用している場合、使用されている転送の種類によってパブリッシュ・コールからのリターン・コードの内容が決定します。パブリッシュが非同期モードで実行されている場合、リターン・コードでは、データがソケットに書き込まれたことのみが示されます。パブリッシュが同期モードで実行されている場合、パブリッシュ・コールからのリターン・コードでは、プラットフォームから送信された応答コードが示されます。</p> <p>パブリッシュ・コールでは、処理中に発生したエラー(重複データの挿入など)は返されません。</p>

## 追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、Sybase Product Manuals Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- (<http://sybooks.sybase.com/>) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/News groups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

---

**注意：** 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

---

## サポート・センタ

---

Sybase 製品のサポートを利用してください。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

## Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

---

EBF と Maintenance レポートは、Sybase Web サイトからダウンロードしてください。

1. Web ブラウザで <http://www.sybase.com/support> を指定します。

## 追加の説明や情報の入手

2. メニュー・バーまたはスライド式メニューの [Support (サポート)] で [EBFs/Maintenance (EBF/メンテナンス)] を選択します。
3. ユーザ名とパスワードの入力が求められたら、MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
4. (オプション) [Display (表示)] ドロップダウン・リストからフィルタを指定し、期間を指定して、[Go (実行)] をクリックします。
5. 製品を選択します。

鍵のアイコンは、「Authorized Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[My Account (マイ・アカウント)] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。

6. EBF/Maintenance レポートを表示するには [[Info]] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

## Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

---

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、[http://www.sybase.com/detail\\_list?id=9784](http://www.sybase.com/detail_list?id=9784) にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。

## MySybase プロファイルの作成

---

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [今すぐ登録] をクリックします。

## アクセシビリティ機能

---

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

---

**注意：**アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

---

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。(<http://www.sybase.com/products/accessibility>)このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

追加の説明や情報の入手